

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293100010		
法人名	社会福祉法人 南山会		
事業所名	憩いの里富津		
所在地	富津市青木2丁目20番地16		
自己評価作成日	平成30年2月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ウェルビーイング
所在地	千葉県木更津市東中央1-1-13マコーラ第一ビル6F604
訪問調査日	平成30年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

等施設内は、間口の広い玄関となっており明るく、また、廊下もゆとりのある広さとなっております。設備は、オール電化で各居室にトイレや洗面所があり、入居者様にとって、過ごしやすく暮らせるように配慮しました。キッチン是对面式となっており、食事は三食手作りで、温かいうちに提供し、入居者様に好評いただいております。また、入浴も週三回行っており、とても喜ばれています。毎月行われる行事には、地元ボランティアを招いたり近隣の保育園児との交流を行っております。入居者様とご家族様が面会しやすいように施設利用料のお支払いは、施設の窓口へ直接お越し頂き、面会の機会を設けています。協力医がは月に二度の往診があり、安心できる医療体制が築かれています。入居者様が日々穏やかに伸び伸びと生活できるよう、個人の尊厳を尊重しながら支援させていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は地域に公園やショッピングセンターなど、買い物や散歩をする。日常的に生活をしていく場としては、便利な場所である。利用者は日々気分転換をしており、ストレスの発散や健康管理に努めている。体調改善の為に、週3回の入浴が出来る。季節湯、ゆず湯や菖蒲湯など香りを楽しむ事も出来る。医療は主治医が月2回の往診で看護師が同行し、職員と連携を図り、利用者の体調に注意を払っている。食事は季節や行事を考え、調理人が力を発揮し、毎日バランスの良い食事を提供している。オール電化で新しい雰囲気キッチン作りがされている。避難訓練は年2回行い、火災や夜間の対策に備えている。施設内に地域の人が立ち寄れる認知症カフェを考え、地域との関わりを作り、開かれた施設を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を事務所内や玄関に提示し、毎月行われる全体会議等で再確認を行い、理念を共有して実践しています。	全体会議で、運営やケアサービスを行う上での理念を共有し、地域密着型サービスの意義や役割を考え、実践に繋げている。理念は、玄関や事務所の目につく位置に掲示し、意識づけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩では地域の方々と挨拶や会話を交わしています。近隣の保育園の行事に参加したり、当ホームの行事に地元ボランティアを招き交流を図っています。	地元のボランティアがフラダンスを踊る。青堀幼稚園の行事に招かれ、皆で参加する。地域の人々と散歩や買い物で挨拶や会話でふれあう機会は多い。施設の間合せ、見学があり、いつでも快く対応している。毎日の暮らしの中で、地域と繋がりが暮らししている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話での相談や、突然の施設の見学に対応しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービスや状況についての報告を行っています。会議での意見を全職員に周知し話し合いを行い、サービスの向上に努めています。	年1回の運営推進会議を行う。介護福祉課、地域包括支援センター、施設理事の参加で行われている。現状報告や意見、要望などで会議は進められている。意見はサービス向上に活かしている。地域との関わりは大切であり、参加メンバーに地元の方を入れる事や、議題を決め話し合うなど、効果のある会議にしたいと考えている。	内部の事情で、今年は年1回の運営推進会議になりましたが、今後は年4回、3カ月に1回を目標と、参加メンバーが地元の民生員や区長さん、又は地域包括支援センターをメンバーに加える事を目標に向けて、頑張ってもらう事に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは密に連絡を取り、状況を伝えたり話し合いをすることで、協力関係を築いています。	運営推進会議に、介護福祉課の担当者の参加がある。市とは利用者の事で常に関わりがある。情報を共有し、実践現場の理解と支援を頂き、連携を図って行きたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、全ての職員が正しく学び、身体拘束しないケアに取り組んでいます。	施錠は行っていない。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。内部研修を行い、理解を深めている。利用者の状況により、少しの時間鍵を掛ける時もある。鍵を掛けず安全に過ごして頂く為に、声掛け、誘導などを行い、抑圧感の無い暮らしが出来るように支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議にて学び、職員の意識向上を図り、虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援制度及び、成年後見制度について会議で学んでいます。成年後見制度については、事例があり支援を行っています。日常生活支援制度については、今後必要に応じて活用していきたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問点や不安点は、理解・納得して頂ける様に十分な説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に苦情相談窓口を設けており、契約書に記載すると共に、説明を行っています。また、外部苦情窓口についても契約書に記載し、案内を粉めています。	苦情箱を設置している。家族は訪問された時に、意見や要望などを話す。外部評価のアンケート調査で、良い点や改善して欲しい点などを書く事も出来る。家族からの意見や要望は、前向きに活かし、サービスの質の確保に繋げている。意見を表す事の出来ない利用者であっても、利用者主体の運営に心掛けて行きたいと考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例会議や、年二回の個人面談で、職員の意見や提案を聴き、多くの意見を取り入れています。	月例会議で、職員は一つ何か気が付いた事などを話す。年2回個人面談を行い、現場への意見や、個人的な話などを聞き、向上心を持って働けるよう心掛け、意見や気付きは運営サービスに活かしている。働き易い職場づくりを目指している。評価を行い、勤務状況を把握し、職員処遇に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の実績や能力によって給与水準を定めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修に参加したり、定期的に内部での研修会を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との相互訪問があり、ネットワーク作りをしています。他事業所との交流する機会を持ち、勉強会を行いサービスの向上に取り組んでいます。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ずご家族同伴の上でご本人に見学に来ていただき、面談を行っています。要望等を傾聴し、安心納得をしていただける説明や話し合いをさせていただき、信頼関係が築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に必ずご本人の上でご家族に見学に来ていただき、面談を行っています。要望等を傾聴し、安心納得をしていただける説明や話し合いをさせていただき、信頼関係が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人ご家族のお話を傾聴し話し合うことで、その時に必要としている支援を見極めています。場合によっては、他のサービスについても説明を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や後片付け、洗濯物畳みや居室の掃除、シーツ交換、散歩し煮他入居者の車椅子を推着して頂く等、一人一人の有する能力に応じて出来る事をして頂き、暮らしを共にする者同士の関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共にご本人を支えていけるように、ご家族とは小さなことでも常に連絡を取る様にしています。必要に応じて面会に来ていただき、直接ご本人とお話して頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年始の挨拶周りや食事会、墓参り、以前住んでいた商店街江の買い物等、家族や知人との外出を容認し、関係が途切れる事の無い様に支援しています。	地域社会と継続して行く上でも、地域に出掛け買い物をする。家族や知人と出掛ける。食事会や墓参り、関係を継続させる為、月に1~2回は地域に出掛け、交流を行っている。家族との距離を離さないよう、常に職員は利用者の様子を細かく伝えている。利用者同士が共に暮らしを楽しめるように、注意深く見守っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、孤立することが無い様に、食事席等を配慮しています。散歩時に車椅子を押して頂いたり、居室を自由に行き来され一緒にテレビを視聴したり談話される等、利用者同士が関わり合える様に支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も経過を伺い、必要に応じて相談や支援を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言動や会話の中から希望や意向の把握に努め、その人らしく暮らしていけるように会議等でも検討を行っています。	思いや暮らし方の希望は、職員全体が思いや意向に関心を払い、把握に努め、日々の行動や表情などから汲み取るようにしている。利用者は食べる事に関しては、自分の意思をしっかりと話す。定期的に要望を聞き、把握に努めている。困難な場合は、家族や関係者から情報を求めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活環境やサービスの利用経過については入所前に情報を収集し毎月の会議等で話し合い、全スタッフが把握に努めています、		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の身体状態や日々の過ごし方を把握し、その日その時の状態に合わせて対応し、過ごしていただいています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケース会議を行い、課題とケアのあり方について、話し合いを行っています。その意見に基づき、ご本人やご家族と話し合った上で、介護計画を作成しています。	毎月ケース会議を行い、課題とケアについて話し合い、利用者がより良く暮らす為の意見を、皆で話し合い、結果、家族とも検討し、介護計画の作成をする。変化が生じた時には、記録に残し、職員は共有し、記録を基に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等、個人記録表に詳細に記載することで、情報を共有しています。必要に応じてその都度話し合いを行い、実践や介護計画の見直しに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われず、その時々のご本人やご家族のニーズに対して柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園でのお花見やドライブ、買い物等で地域の方々と触れ合うことで喜びや楽しさを感じることが出来る様に支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による2回/月の往診があり、必要であれば医師・ご家族・事業所相談の上、専門医を受診していただき適切な医療が受けられるようにしえんしている。	主治医は月2回の往診で、看護師が同行している。皮膚科や婦人科の専門に掛かる場合は、家族の対応をお願いしている。通院時には受診の結果を職員に伝え、共有している。利用者が入院された時には、病院関係者や家族と連携を図り、退院後に備えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医の往診時看護師も同行し、情報や気付きを伝い相談する事があります。電話連絡でもその都度相談し、医師に報告され適切な指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療が受けられるように。病院関係者やご家族との連絡を取り合って情報交換を行い、退院後に備えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には、ご本人・ご家族・関係機関・主治医と十分に話し合い、方針を共有しています。地域関係者とのチームでの支援は、今の所行っておりません。	利用者が重度化した場合は、状況の変化に応じた関係者との話し合いの機会を作っている。今まで看取りは行ってないが、今後、様子が変わる事も考えられる。職員は連携を図り支援に努めている。緊急時の為に救命講習を受講しており、対応が出来るようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一部の職員は普通救命講習を受講しており、応急手当や心肺蘇生の方法を取得しています。また、緊急時の対応については、定例の会議の場で確認・周知を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により、避難訓練を年二回実施しています。スプリンクラー設備、役割分担・連絡体制も各職員が認識しています。	年2回の避難訓練を行い、火災を中心に消防署の指導を受けている。夜間の訓練は職員が少なく、協力体制が必要である。スプリンクラー設備や、役割分担、連絡体制、備蓄などを用意している。食料の賞味期限など注意し、備えている。	特に夜間の訓練は、職員の不足もあり、協力体制が重要です。役割分担や連絡体制を充分検討されて、年2回の避難訓練を、年3回として、夜間訓練の充実をお願いしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人権や人格を尊重し、プライバシーに配慮した声掛けや対応を行っています。	利用者の誇りやプライバシーに気を付け、接している。声掛けをする時は、傷付けないよう、さり気ない言葉使いに注意し、責任ある管理の徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が思いや希望を表すことができるよう働きかけ、納得して暮らしていけるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や日課の体操など時間の決まりはありますが、それ以外はご本人のペースで過ごされています。散歩や買い物等出来る範囲で一人一人のご希望に沿える様に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みを聞きながら着替えの準備をする等、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来る様に支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるような毎食メニューの掲示を行っています。食事の準備や盛り付け・後片付け・配膳など個々の能力によってできる事・得意なことを職員と一緒にしています。	食事は季節の食材を使用し、彩り良く盛り付けられ、バランスの良い食事が提供されている。器にも心配りがされている。水分補給に気を付け、好みの物を飲む。食事で嫌いな物を変える。食事が楽しみになる様に工夫し、提供している。利用者は出来る力を発揮し、食事の支度を手伝う。食器拭きや、おしぼり作りなどを行い、1日の仕事としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態により食事形態を変えたり、好みの飲み物を抵抗しています。また、苦手な食べ物はご本人の好みに合わせて代替品を提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の力や口腔状態に応じて、介助及び声掛け・見守りにて口腔ケアを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間での声掛けや、トイレ誘導を行うことで、排泄の失敗を減らす様に支援しています。オムツ対応の方でも、日中はトイレ誘導を行いオムツの使用を減らすように支援しています。	一人ひとりの状況に合わせ、声掛け、誘導を行っている。日中はトイレで排泄、夜はパットやおむつを利用する人もいる。細目に支援し、失敗を減らし、利用者も気持ちが良い。便秘の予防の為、水分補給、体操を行い、習慣づけ、快適に過ごせる様に心掛け、支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には繊維の多い食品や乳製品を積極的に取り入れています。まあ、日課の体操意外にも運動を行ったり、ペットボトルに入れた水を居室に置き、いつでも水分が摂れる様に個々に応じて対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間に合わせてご自分の着替えを準備したり、順番を確認されたり、皆様楽しみにされています。入浴の方法は個々に合わせた支援を行っています。季節に合わせて、菖蒲湯やゆず湯を行い、楽しめるように支援しています。	週に3回入浴が出来る。ユニット毎に曜日を決めている。スムーズで安全・安心な入浴が出来るよう気を付けている。季節湯に入り、香りを楽しむ事が出来る。体調の改善や、清潔保持、職員の連携プレイで個々に合わせ気分良く入浴が楽しめる支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や状況に応じて、自由に休息して頂いています。個々によっては時間を見て離床の声掛けを行い、夜間良眠出来る様に支援しています。夜は睡眠時間を決めず、ご本人の希望に沿って就寝して頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルにて情報を共有し理解しています。症状の変化等があった場合は、速やかに医師に連絡し適切な指示を仰ぐと共に職員への申し送りを行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	配膳や洗濯畳み、おしぼり配り等個々の力を活かした役割を担う事で張り合いのある日々を過ごして頂けるよう支援しています。季節の行事や誕生会等で楽しみや喜びを感じて頂いたり、散歩で気分転換を図って頂ける様に支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人に希望に沿えるように、買い物や散歩、ドライブ等戸外に出かけることが出来るよう支援に努めています。ご本人の希望を把握し、ご家族の協力を得て外出出来る様に支援を行っています。	散歩やドライブ、買い物など、希望に合わせて行っている。中には散歩は面倒くさいとか、寒いなど出掛ける事を好まない利用者もいる。職員は声掛けをしたり、知恵を絞っている。家族の協力を得て外出が出来るよう、支援に努め、気分転換や五感の刺激のチャンスを作り、活かして行けるよう支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、お金を所持されている方はいませんが、ご家族よりお預り金があるので、ご希望があれば買い物に行く支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話を受け継いだり、職員が御家族へ電話を掛けて取り次いでいます。手紙のやり取りはご本人の要望に合わせて支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面キッチンが設置され、食事時は色々な音や匂い等で生活感が感じられる空間になっています。廊下やリビングには四季折々の植物を飾り、四季を感じて居心地良く過ごせる工夫をしています。	玄関入口には季節の花や、手作りの桜の作品が飾られ、季節ごとに変えている。行事の写真が貼られている。リビングは明るく整えられ、利用者はソファで寛いでいる。テレビ、会話を楽しむ。キッチンにはオール電化の設備で快適。食事の匂いで生活感がある。飾りで季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、ゆっくりとテレビ視聴や団欒が出来る様になっています。また、玄関・ホール・テラス、層化にはベンチや椅子を配置し、一人一人が好みの場所で過ごせる様に工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具を持ち込んで頂き、写真やお花など好みのものを飾られ、ご本人が居心地良く過ごせる様に工夫しています。	入居の時に、使い慣れた家具を持ち込んだり、家族が買って来て入れる人様々である。仏壇や、写真を持って来る人、一人ひとり思い出を大切に、居室作りを行っている。居室にはトイレが設置され、プライバシーが確保され安心である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にはトイレと洗面所が設置され、手すりはトイレや廊下等、要所要所に設置してあります。各居室にトイレがあることで、トイレに迷うことなく安全で自立した生活が送れる環境になっています。		